

先人から築かれてきた 医師を育む〈伝統〉。

医師教育特集

愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院



同院を選び、着実に成長を続ける一人の若き医師の姿から、同院の医師育成の実情を追った。 ただ、これには、若手医師を優秀な戦力へと押し上げる育成の仕組みが欠かせない。初期研修・後期研修先に 同院の外科を束ねる新井利幸副院長 兼 外科代表部長には、思い描く理想の姿がある。それは 人の傑出した医師がいる外科ではなく、どんなメンバーでも機能する強固な組織を創り上げることだ。

CHAPTER 早期の実践経験。実臨床を意識した

期研修1年目の医師が、患者の病状や ファレンスで、淡々と進んでいたプレゼン 師たちが一堂に会して行う外科のカン に指導医から厳しい言葉が飛んだ。後 「大事なところはそこじゃない」。 医

> 増して強い檄に、緊張感が漂うなか、 目には明らかに準備不足だと映ったのだ。 年目の余語孝乃助医師だった。 次のプレゼンを始めたのが、後期研修2 検査内容を報告していたが、指導医の |画像の見方、違うでしょ]。いつにも

指導医たち。その後は検査内容の確認 症状を的確にとらえた説明にうなずく 「この患者の症状は…」。 担当患者の

同院の研修医が担う一番の仕事は

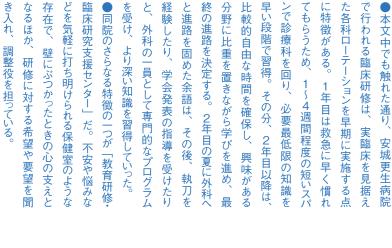
される。余語も指導を受けるたびに知 ても多いです」と余語も話す。 な学びの場。「ここで勉強することはと 識を深めてきた。 カンファレンスは大切 の見方や手術のポイントが毎回チェック 議論が交わされ、発表は無事終了した。 他の検査の必要性の有無など、冷静な 外科の定期カンファレンスでは、画像

自分の実診療に役立ちますから、

うことがしたい』という思いを全力でサ は伝統的に職員の人柄が良く、『こうい ます」。こうした恵まれた環境が整って ポートするなど、人的資源に恵まれてい 力。指導医である新井は言う。「当院 気がいい」のも、余語が感じる同院の魅 さらに、「コメディカルを含めて雰囲 共通している。 はない。必ず1年上の先輩とペアで診 これは外科に限らず、どの診療科でも 制が万全ですから安心です」(余語)。 のフォロー体制が築かれている。「急に に、そして上級医に相談する屋根瓦式 療し、分からないことはさらに上の先輩 年目の研修医が1人で当直に入ること び、5月頃から当直に入る。ただ、 最低限の知識を各診療科の医師から学 月間の座学を通じ、救急外来に必要な そのため、 者を診ることは、重要な学びとなる。 救急外来。さまざまな症状、疾患の患 上の先生に相談すればいい。フォロー体 心拍数が上がるようなときには、すぐ 初期研修1年目は、

患者に深く関わることになる。 刀する機会も多く、術後の経過観察や にする。後期研修になれば、実際に執 意欲も持ちやすいです」 とメリットを口 に必要な知識を重点的に学べ、すぐに も特徴だ。余語も、「救急外来の診療 を身につけられる診療科をすべて回るの 退院後の外来診療なども担当。一人の また、1年目のうちに救急の実践力 学習





指導医から時折飛び出す 淡々と進むカンファレンス。 静寂に包まれた外科病棟で

厳しいチェックは、

研修医たちの確かな成長の糧だ。

1

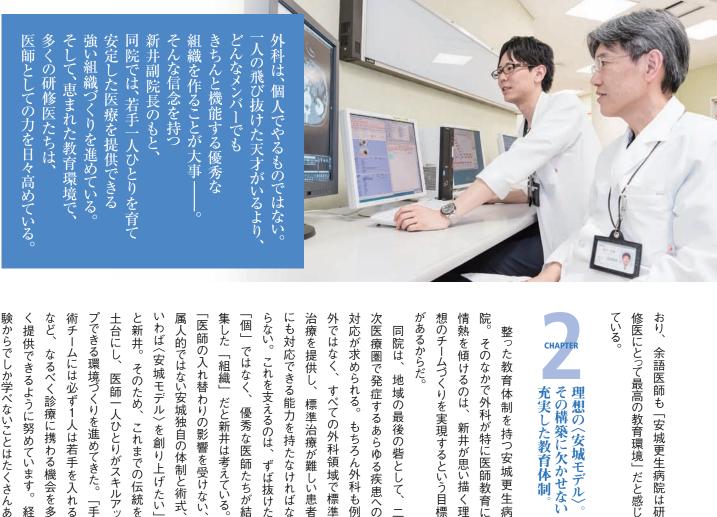
研修プログラムを整備。

流の医師を育てるべく

研修医たちの成長を見据え







おり、 修医にとって最高の教育環境」だと感じ 余語医師も「安城更生病院は研

CHAPTER その構築に欠かせない 理想の〈安城モデル〉。 充実した教育体制。

があるからだ。 想のチームづくりを実現するという目標 情熱を傾けるのは、 整った教育体制を持つ安城更生病 そのなかで外科が特に医師教育に 新井が思い描く理

余語の目下の目標は、

、難しい手技に

いわば〈安城モデル〉を創り上げたい らない。これを支えるのは、ずば抜けた にも対応できる能力を持たなければな など、 と新井。 属人的ではない安城独自の体制と術式 治療を提供し、 外ではなく、すべての外科領域で標準 く提供できるように努めています。 術チームには必ず1人は若手を入れる プできる環境づくりを進めてきた。「手 土台にし、 医師一人ひとりがスキルアッ 集した「組織」だと新井は考えている。 対応が求められる。 もちろん外科も例 次医療圏で発症するあらゆる疾患への 「医師の入れ替わりの影響を受けない、 個 同院は、地域の最後の砦として、二 ではなく、 なるべく診療に携わる機会を多 そのため、これまでの伝統を 標準治療が難しい患者 優秀な医師たちが結

> 上で、 つ充実した教育体制なのである。 結果こそ、 若手の底上げに力を注いできた 余語医師らがのびのびと育

してほしい」と期待をかける。 く極め、そこに軸足をおいて広く勉強 専門としたい興味のある分野をとにか そんな余語に新井副院長は、 ほどで同院を一旦離れることになる。 後期研修2年目の余語は、 残り1年 「自分が

> すこと。 ような医師になりたい」と抱負を語った。 欲張りですから、 野に特化する医師が主流ですが、 そして、「今は特定の専門分 自分が主導できる手術を増や まずは何でもできる

同院を離れ、 な明るい未来を思い描いている。 以上先のことだが、新井副院長はそん れる責任者として舞い戻ってくる 余語医師がさらなる成長を遂げ、 再び戻ってくるのは10

STAGE 医師という職業 常に学びが欠かせない

BACK

につける必要がある。 先端の手技の習得や、 が求められる。また、医療は日進月歩で進 ているほか、後期研修としてさらなる学び も2年間の臨床研修が法律で義務づけられ 免許を取得すれば終わりではない。その後 医学部に入学し、 ●医師とは、常に学びが必要な職業である。 6年間の勉強を経て医師 新たな疾患への対応 立ち止まることが許 最新機器の知識も身

的なスタートラインであるといえる。 ちんとサポートするのと同時に、成長を促 すための実践の場を数多く提供している安 しまうといっても過言ではない。 若手をき 人生が大きく左右され、将来を決定づけて 台を作るのが、 されないのが、 がどう支えるのかによって、その後の医師 しての第一歩を踏み出す上で、 ●そんな生涯にわたり続く医師の学びの土 一歩をどのように踏み出すのか、 同院の教育環境は、 医師という仕事なのである。 初期研修である。この最 まさに理想 医師と

企画制作

りますから」。患者の安全を確保した

中日新聞広告局

愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院

〒446-8602 愛知県安城市安城町東広畔28 TEL 0566-75-2111(代表) FAX 0566-76-4335 http://anjokosei.jp/

お問い合わせ

中日新聞広告局広告開発部 TEL 052-221-0694

FAX 052-212-0434

プロジェクトリンクト事務局

TEL 052-884-7831 FAX 052-884-7833 http://www.project-linked.jp/

プロジェクトリンクト



LINKED VOL.28 タイアップ

